

令和5年度鹿児島学習定着度調査の結果について

鹿児島市立花尾小学校

令和5年度1月に5年生を対象に実施した鹿児島学習定着度調査の結果について、公表します。各家庭でも家庭学習の在り方の参考にしてください。

1 鹿児島学習定着度調査の目的

- (1) 基礎的・基本的な知識及び技能や思考力、判断力、表現力等に関する学力の状況及び児童の学習に関する意識や学び方などの学習状況の把握
- (2) 全体の状況把握、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫・改善

2 調査の対象学年

小学校第5学年（国語、社会、算数、理科）

3 本校児童の実態

全体的な傾向としては、全ての教科で県や市の平均を下回っている。社会が特に課題である。

算数と理科については無回答がなく全ての問題に取り組むことができた。

個々で見ると、いくつかの教科で県の平均を大きく上回る児童もいる。

4 本校児童の課題

	課題
国語	<ul style="list-style-type: none">主語・述語や修飾・被修飾語の関係についての理解が不十分である。文章をしっかり読んで、理解したことに基づいて、自分の考えたことをまとめることができていない。複数の資料から意図を読み取ることができていない。
社会	<ul style="list-style-type: none">グラフや表、地図から必要なことを読み取ることができていない。平野の土地利用についての資料を読み取ることができていない。記述式の解答に慣れておらず、自分の言葉で考えを表現することができていない。
算数	<ul style="list-style-type: none">数量関係の理解が不十分で、立式ができていない。複数の資料から必要な情報を捉え、論理的に考えることができない。文意を理解せず、解答をしている。
理科	<ul style="list-style-type: none">電流や磁石など、前年度までの学習が未定着である。予想→実験・観察→結果→結論の学習過程が十分に身に付いていない。複数の資料から必要な事柄を比較・関係付けることができていない。

5 学校全体で取り組むこと（改善策）

○ 授業改善

- 児童が主体的に課題を見付け、その解決を目指す授業設計を単元や内容のまとまりを見通して行う。
- 教師のICT活用とともに、児童自身が積極的・主体的にICTを活用した授業を展開する。
- 意見文や報告文、感想文、条件を与えた作文（新聞感想文など）を書く機会を意図的に設ける。
- 文章をじっくり読み、自分一人で解決を目指す時間を確保する。
- 基礎的・基本的な内容の繰り返しによる定着を図る。
- 得た知識等を活用し、自分なりの言葉でまとめさせたり、振り返らせたりする。
- 文章やグラフ、表など資料から分かることやキーワードに線を引いたり印を付けたりして情報を整理し、考察し、自分の言葉で表現する活動を増やす。

○ 家庭との連携

- 児童が主体的に取り組むことができる家庭学習を行う。（iPad持ち帰りも含む。）
- 花尾読書の日には、親子であらすじを紹介し合ったり、感想を伝え合ったりする。
- 音読や試写を行い、文意や要旨の理解を図らせる。

○ 個に応じた指導

- 一人一人の学習に関する特性を分析し、指導に生かす。
- かごしま学力向上Webシステム、アシストシートの問題に取り組む。
- 学習チャレンジタイム（毎月土曜授業1校時）では一人一人にあった課題を与え、個別に指導を行う。
- 資料から分かることを整理し、考察する活動を増やす。